

掲載号	6 月 4 週号	
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター
	職名及び氏名	野菜研究室 室長 鈴木秀章
題名	業務用秋冬ニンジンの省力生産及び貯蔵技術	
備考	<b>【図表説明】</b> 図. 1粒まき無間引き栽培における株間と秋冬ニンジンの収量	

【本文】

ニンジンの業務用需要の高まりを受けて、大型規格のニンジンの安定生産が求められています。今回、業務用秋冬ニンジンにおける、適品種、無間引き栽培の株間と、端境期で大型規格品が不足する4月に出荷するための貯蔵技術を紹介します。

業務用秋冬ニンジンの適品種

年内収穫用としては、早生で業務用に適するL級（根重 200g）以上の可販収量及び総収量が多い「愛紅」が適しています。1月以降の収穫用としては、耐寒性が強く葉がしっかりしていてニンジン用収穫機が利用しやすく収量の多い「れいめい五寸」、「グランプリ」が適しています。

無間引き栽培における株間

間引き作業が省略できる1粒まき無間引き栽培では、畝幅 70 cm の2条まきの場合、株間 8 cm 以上でL級以上の可販収量が多くなります（図）。一方、株間 12 cm では欠株になった前後の株で根の肥大が旺盛になり過ぎ、裂根や岐根の発生が多くなる場合があるので、1粒まき無間引き栽培では株間 8 cm が適しています。

4月出荷のための貯蔵技術

8月中旬に播種し3月下旬に収穫したニンジンは、一般的な低温貯蔵庫（庫内温度 3℃）で貯蔵することで品質の低下を防ぐことができ、4月下旬まで出荷が可能です。また、庫内温度が-1℃程度で制御できる低温貯蔵庫を利用すれば、2月下旬に収穫したニンジンを低温貯蔵して4月下旬まで出荷することが可能です。

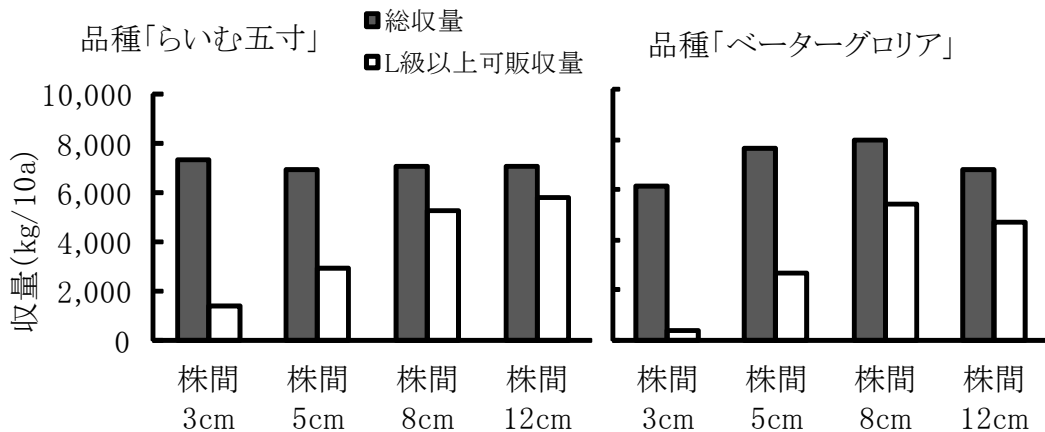


図 1粒まき無間引き栽培における株間と秋冬ニンジンの収量

注) 平成 20 年 8 月 11 日播種、平成 21 年 1 月 23 日収穫